

## 遠隔教育による教員の力量形成

Teachers' competency development through distance education

～岐阜大学教育学研究科における夜間遠隔大学院の取り組み～

.. Implementation of graduate school of education night & distance program,  
Gifu university..

村瀬 康一郎

MURASE Koichiro

岐阜大学総合情報メディアセンター

Information and Multimedia Center, Gifu University

〈あらまし〉 岐阜大学大学院教育学研究科では、現職教員に対する修士レベルの研修機会を提供するために、テレビ会議システム等を用いて多地点のサテライト教室を結び遠隔講義を行っている。また、専修免許取得のための免許法認定公開講座等の実施もおこなってきた。これらの取り組みは、特に研修機会の拡大を狙ったものであるが、参加する現職教員の、授業をとおした授業大学教員や他の学校教員との交流において、自己の実践の振り返りや課題の明確化などに大きな効果を及ぼしていることが分かった。

キーワード: 教員研修, 遠隔教育, 夜間遠隔大学院, テレビ会議システム, e-Learning システム

### 1. はじめに

教師の力量や専門性を高めるために、現職教員の大学院修士課程レベルでの研修の必要性が指摘され、いわゆる14条特例や夜間大学院、大学院研修休職制度など、さまざまな方策が実施されつつある。

しかしながら大学院で学修できる教員の数は極めて少数（岐阜県の教員は約12000人に対し年間十数名、10年で1%程度）で、文部省の目標である10年間で2～3割には程遠い。公開講座等による研修は、ある程度の人数の研修に対応できるが、次のような問題がある。すなわち、修士課程での研修でも公開講座での研修でも、実際には実施大学の近在の教員しか参加できず、遠隔地の教員は何時間もの移動時間と交通費といった経済面、勤務校を離れることでの学校・学級経営や生徒指導、家庭生活などに与える影響を考えると参加が困難であり、研修機会の公平性の観点で大きな問題がある。また、専修免許取得者に対する給与面を含む処遇改善が検討されつつあり、この点でも公平性確保

が課題となる。さらに教員個人の問題にとどまらず、遠隔地域が抱える教育格差を教員の資質向上をとおして解消することや、教育力の維持・向上といった課題解決に大きな支障が出てきている。

これらを解決する方法として、ICTを活用する遠隔教育の実施がある。すなわち、公開講座や大学院授業の教室と遠隔地のサテライト教室を、リアルタイム及び双方向性のあるテレビ会議システムなどで結び、教育センターや大学から遠く離れた地域の教員も受講できるようにするものである。

本稿では、岐阜大学教育学研究科での遠隔公開講座、夜間・遠隔大学院の実施状況と、受講した学校教員への効果について述べる。

### 2. 夜間遠隔大学院における教員研修

岐阜大学大学院教育学研究科では昼夜開講制をとり、現職教員が講義を受け易くしている。平成11年からは、主に夜間開講の授業で単位取得する修士指導を開始した。さらに夜間開講の授業は、テレビ会議システムで高山・土岐・各

務原・大垣・岐阜大附属学校及び熊本市の各遠隔教室を結び、各地区にいる現職教員の院生及び科目履修生が講義を受けられるようにした。

課題研究を除く修了に必要な少なくとも24単位を、週1日の夕方6時からの講義2コマと集中講義で取得できるよう、カリキュラム上の工夫をおこなっている。

サテライト教室にはテレビ会議システムのほかFAX、コピー機、参考資料を配置し、講義資料の配布・複写、質疑応答が簡便にできるよう配慮している。さらに院生にはインターネット利用を義務づけて、電子メールによるレポート提出や質疑のほか、AIMS-Gifuと名付けられたe-Learningシステムを用いて科目ごとに、掲示板等での担当教員や他の受講生とのコミュニケーション、学習資料のダウンロードができるようにしている。さらに急用が発生し、その日の授業に参加できなくなる院生のために、授業を自動的に録画し、VODシステムでいつでも過去の講義を復習可能としている。またIP接続による遠隔ゼミシステムも導入している。

### 3. 免許法認定公開講座

岐阜大学教育学研究科では平成7年から免許法認定公開講座を実施しているが、テレビ会議システムを用いた遠隔公開講座は平成9年度より行っている。9年度は大学と高山での1対1の遠隔授業であったが、10年からは大学・高山・中津川・郡上の4会場を結ぶ多地点遠隔

授業を実施している。また、岐阜県内だけでなく、新潟大学と香川大学と協力して、岐阜・新潟・長岡・高松・坂出の遠隔教室を設定し、新潟・高松からも講師が参画する遠隔共同授業を実施した。平成12年度は、参加大学で共同制作したビデオ教材をCSによって放映し、7大学14会場(岐阜女子大、岐阜大、新潟大、香川大、北教大、山口大)のそれぞれの公開講座で視聴・利用した。この講座では、CSでの教材視聴で概論的な知識獲得を図り、テレビ会議による討論や質疑応答で理解深化を図れるようなメディア利用を行った。

夜間遠隔大学院と公開講座の受講者数と授与単位数は下表のとおりで、計算上二千人を超える専修免許保持者を養成したことになる。

### 4. 教員に与える効果

院生である学校教員は、週1回の授業のためにサテライト教室に集まってくる。メディアをとおした授業のデメリットを補うために、講師は一方的な講義ではなく極力、院生からの発言を促したり討論活動や共同作業を取り入れるようにしている。この結果、本来課題意識が高いが、日々忙しくて自己の実践を見直したり改善したりすることができない教師にとって、またとない場所と時間になっているようである。また、e-Learningシステムにより常時、担当教員や他の受講者と交流できることが、学習意欲・参加意欲の維持に寄与していると思われる。

年度	遠隔講義名等	実施場所(サテライト教室等)	遠隔の延受講者(単位)
H7.8	大学院公開講座	岐阜大学において大学院単位認定公開講座を開始	
H9	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山	380名 (380)
H10	大学院遠隔講義	岐阜大学・同附属学校・高山・県生涯学習センター	505名 (1,010)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・郡上八幡	356名 (356)
H11	大学院連携公開講座	岐阜大学・新潟大学・香川大学	510名 (1,020)
	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山	大学院入学15名
H12	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・土岐・郡上八幡	883名 (1,766)
	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・土岐・各務原科目等履修生	大学院入学18名 53名 (106)
	大学院連携公開講座	岐阜大学・岐阜女子大学	481名 (962)
H13	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・多治見北・各務原科目等履修生	大学院入学22名 27名 (54)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・土岐・多治見・郡上八幡	914名 (1,828)
H14	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・多治見北・各務原科目等履修生	大学院入学15名 11名 (22)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・大垣・県総合教育センター・岐阜女子大学・京都・高知・沖縄	974名 (1,948)
H15	夜間遠隔大学院	岐阜大学・高山・多治見北・各務原科目等履修生	大学院入学15名 48名 (96)
	大学院遠隔公開講座	岐阜大学・高山・中津川・大垣・県総合教育センター・岐阜女子大学・京都・高知・沖縄・新潟大学・福井大学	825名 (1,650)